

星陵北キャンパス支援チームの活動について

小森 和樹

東北大学事業支援機構総合技術部（大学院農学研究科・農学部）

1. 背景

2019年8月より星陵北キャンパス（歯学部・加齢医学研究所）において、①若手職員の育成および②退職者が出たことによる業務量の増加に対する支援として、医学部および農学部からそれぞれ1名ずつの技術職員を追加人員として、星陵北キャンパス支援チームを立ち上げた。

今回、②退職者が出たことによる業務量の増加に対する支援として、星陵北キャンパス支援チームのネットワーク管理グループに参加したので、報告する。

2. 星陵北キャンパス支援チームの構成

①広報グループ（若手職員の育成）

若手職員1名（歯学部）、中堅職員1名（医学部）

②ネットワーク管理グループ（退職者が出たことによる業務量の増加に対する支援）

中堅職員1名（加齢研）、中堅職員1名（歯学部）、中堅職員1名（農学部）

*中堅職員1名（歯学部）がチームリーダー、左端が主たる支援対象。

3. 主な活動

ネットワーク管理グループの主な活動として、加齢医学研究所のネットワークリプレースがある。また大きなトラブル等が発生した場合は複数名で協力して対応する。

4. 支援チームのメリット

一言でネットワーク管理といっても、スイッチ等の機器から、サーバ、パソコントラブルと関わる範囲が広く、1名の技術職員の場合、多少の得意不得意が発生するのは自然なことである。チームとして業務にあたることで、お互いの得意分野を組み合わせることが可能となった。また単純な技術のほか、予算化や交渉といった分野でもお互いの得意分野を組み合わせることが可能となる。

単純な業務効率だけでなく、人材育成という意味でも非常に有意義な内容であると考察する。

5. 今後の課題

限られた人員の中で効率的に業務遂行を行い、人材育成も可能となる支援チームの設立は非常に有意義ではあるが、今後の課題として気がついたことを報告する。

歯学部にせよ、加齢研にせよ従来の部局における組織体制が存在する。今回の支援チームについては部局横断的に、東北大学総合技術部として支援チームを作成し、業務に当たることとした。部局長、事務長との顔合わせを行い、作業レベルでは実施可能となったが、今後正式に業務を完全共有するとなれば既存の組織体制や指揮命令系統とのすり合わせなど、チームの指揮命令系統を整理し、部局内に周知する必要がある。今回はそこまで踏み込んでいないため、どこまで業務として実施すべきか若干の混乱が発生した。

また指揮命令系統を整備するにあたり、部局組織に組み込むべきか、全学組織として整備すべきか、どちらもメリット・デメリットがあり、今後の検討が非常に重要になることがわかった。